

Persona ペルソナ



C.G.Jung(1875-1961)

- カール・ユング
- Persona: ラテン語で役者の仮面の意味
- 人々は毎日の生活において一種の仮面をつけていると考えた
- ペルソナは社会が人間に要求する結果として生まれる産物
- 一方で人がこうなりたいと思うもの、こう見られたいと願う自分の理想の姿との妥協の形でもある
- しかし、ペルソナは本物の人格ではない

- ペルソナを演じることは、当の本人が外見上の自分と、本当の自分自身とは同じではないということを認識している限りは大丈夫
- 私たちはいつも仮面の後側にいる
- ペルソナは必要である、何故なら全ての人に自分の真の姿をさらけ出すことはできないから
- スイス、バーゼルでのお祭り：モーゲン・ストライク（朝のビート）

事例① NHK「私はあきらめない」－ 役者 竹中 直人

- 演じることの心地よさ
- 「お前の顔なんかいらぬ！！」
- 様々な性格の他人に瞬時に成りきる － むなしい！！
- 他のひとになることで、自分が助けられている



事例② NHK「私はあきらめない」－ プロ将士 高橋 和（やまと）

26 歳

- 自律神経失調症との闘い
- フランスのアルザスで何かが確実に変わっていった
- 将棋を離れたときには、一人の人間としてみてくれた
- 自分は一人の人間として生きていいんだ、と思った瞬間自律神経失調症から解

放された

資料：永田 円了